

第38回無教会全国集会2026のご案内

— 人類の破滅に向かう私たち —

無教会全国集会準備委員会

2026年現在、世界を見渡してみると戦争が終わって平和が訪れた場所はなく、昨年の全国集会で福嶋揚先生が「人類が破滅に向かうことがほぼ確実である」とお話しされた通り、世界が破滅の方向へ動き続けています。

その様な流れで、今回のテーマは「神を愛し、隣人を愛する」となりました。これは、人類が愛に立ち戻らなければ本当に取り返しのつかないダメージを全生物に与えてしまう、破局に至ってしまう、という深刻な危機感に基づくものです。

この人類の危機に対して、「いかにすれば人類が連帯し、愛をつないでいけるか」という問いに対する方向性を早急に追求する必要があります。それは過去に提出された終末論とは異なるでしょう。科学的にも実証されうる深刻な事態を鑑み、この破局にどう立ち向かうかという悲壮な思いから「隣人愛」という切り口で、探求したいと思います。

「自国ファースト、力による平和を声高に叫ぶ政治家が偶然重なっただけ」、あるいは「歴史は繰り返す」など、安易な結論に至らないように注意を払う必要があります。議論を深め、キリスト者として地上の生涯で何ができるのか、若い世代に渡せるものは何かを考える場所になることを期待して、ぜひ東京の今井館にお集まりいただきたいと思います。

2026年7月7日

無教会全国集会準備委員会

坂内宗男（議長）、小舘美彦（副議長）、荒井克浩（事務局長）、廣瀬治基（会計）、大西宏（助言者）、飯田順朗、笹井あかね、鷺見実三、多田義国、土屋真穂

ご 挨拶

議長 坂内宗男

皆さんこんにちは！ 1987年に第1回無教会全国集会が東京・鷗友学園で開催されてから今年まで休みなく開催に至った幸いを、まず主なる神に感謝いたします。

2020年と2021年にはコロナウィルス感染がわが国にも拡大したため、官公庁や会社などもロックダウンせざるを得ない大変な時期はありましたが、私たちは内村鑑三の思想に合わせて「毎年一回の集会、そして解散」ということを積み重ねてきました。

さて、今年の主題は「**神を愛し、隣人を愛する**」としました。聖書の引用箇所は、よく知られたサマリア人の話です(ルカ伝10章29～37節)。ある人が追いはぎに遭い、半殺しにされて倒れているところを、通りがかりの祭司(当時の高位階級)やレビ人(律法厳守の知識階級)といった当時の宗教者たちは、知らぬふりをして通り過ぎました。が、たまたま通りかかったサマリア人(当時ユダヤ人に排除されていた人々)が立ち寄り、憐れに思って最善の看護をし、果ては宿舎まで宿賃を払って用意したのだった、という挿話です。イエスは「3人の中で誰が追いはぎに襲われた人の隣人といえるか」という重大な問いを示されました。これは聖書が問いかける、解決すべき最大の課題の一つとも言えるでしょう。

ここ近年の無教会全国集会のテーマは、「福音に生きる(2023年)」、「ほんとうの平和(2024年)」、「真理への道一破局の中の希望(2025年)」で、主題の根底には、イエスの示す隣人愛が流れていることを実感します。人の共同生活社会においては、誰しもが助け合いの姿勢がなければ生きて行けません。そもそも助け合いは、人の営みにとって自ずと備わった人性である筈です。しかし現実にはもう一つの悪性が同じ人の心に潜んでおり、思わぬ形で爆発して人を排除し、虐待し、殺し合いに発展し、社会問題となる現実がこの見える社会の実相である、と言えるのではないのでしょうか。

主に在る皆さん、同じキリスト信仰に立つ兄弟姉妹として、ともに顔と顔を合わせ、聖書の示す真理を語り合い、日常の生活に生かそうではありませんか。ご参集をお待ちいたしております。

2026年7月7日

無教会全国集会2026プログラム

2026年10月31日（土）～11月1日（日）

テーマ：神を愛し、隣人を愛する

ルカ10:29-37

しかし、彼は自分を正当化しようとして、「では、私の隣人とは誰ですか」と言った。イエスはお答えになった。「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追い剥ぎに襲われた。追い剥ぎたちはその人の服を剥ぎ取り、殴りつけ、瀕死の状態にして逃げ去った。ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、反対側を通って行った。同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、反対側を通って行った。ところが、旅をしていたあるサマリア人は、その場所に来ると、その人を見て気の毒に思い、近寄って傷にオリーブ油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分の家畜に寄せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』この三人の中で、誰が追い剥ぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」律法の専門家は言った。「その人に憐れみをかけた人です。」イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい。」

10月31日（土）【初日】

12:30～13:30	受付 ・会場参加者；今井館聖書講堂 ・ZOOM参加者；ZOOMにて入室	
13:30～13:45	開会式 讃美歌273番B「わがたましいを愛するイエスよ」 聖書朗読：ルカによる福音書10章29-37節 祈祷 開会挨拶	司会：笹井あかね 奏楽：青木勇太 司会者 坂内宗男
13:45～14:45	礼拝 讃美歌393番「かみのひかりは」 聖書朗読：ルカによる福音書10:25-37 聖書講話「混迷の極みの中で ―― 行ってあなたも同じようにしなさい」 ルカによる福音書10:25-37 祈祷 讃美歌536番「むくいをのぞまで」	司会：荒井克浩 奏楽：青木勇太 司会 飯島 信 講話者 奏楽：青木勇太
14:45～15:00	休憩	
15:00～16:00	主題講演「誤解と分断を超えて ―― 時代に立ち向かう勇気を」 讃美歌〔新生讃美歌〕575番 「栄えのみ神よ」 "God of Grace, God of Glory"	森本あんり 司会：笹井あかね 奏楽：青木勇太
16:00～16:05	連絡 散会（映画の準備のため、全員聖書講堂より出る）	荒井克浩
16:05～16:25	休憩	
16:25～18:25	映画上映「聴く隣人のいるところ」（監督：早川嗣）	司会：小舘美彦
18:25～19:00	※映画を観ての「自由な対話の時間」（早川嗣監督来席）	

・映画上映後の「自由な対話の時間」は、早めに帰られる方はご無理をせずご自由にご退席ください。

11月1 日(日) 【2日目】		
8:30~9:30	受付 ・会場参加者；今井館聖書講堂 ・ZOOM参加者；ZOOMにて入室	
9:30~10:30	礼拝 讃美歌531番「こころのおごとに」 聖書朗読：ヨハネによる福音書14:27 祈祷 聖書講話「神の平和と世の平和」 ヨハネによる福音書14:27 祈祷 讃美歌〔讃美歌21〕373番「戦い疲れた民に」	司会：小舘美彦 奏楽：土屋真穂 司会 司会 木村護郎クリストフ 講話者 奏楽：土屋真穂
10:30~10:45	休憩	
10:45~12:00	発題 ①「上伊那の農地を開墾した朝鮮青年兵をたずねて」 ②「映画『聴く隣人のいるところ』について」 讃美歌〔讃美歌21〕567番「ナルドの香油」	司会：多田義国 竹内恵子 早川 嗣 奏楽：土屋真穂
12:00~13:15	昼食休憩	
13:15~14:15	特別講演「一隅を照らす 中村哲医師の事業とその継承 ——パキスタン北西辺境州と東部アフガニスタンでの医療・農業・灌漑事業——」	村上 優 司会：多田義国
14:15~15:35	全体集合写真	撮影：飯田順朗
14:35~14:55	休憩	
14:55~16:15	分科会	
16:15~16:30	休憩	
16:30~17:00	閉会式 讃美歌〔第二編〕195番「キリストにはかえられません」 閉会挨拶 祈祷 讃美歌405番「神ともにいまして」	司会：荒井克浩 奏楽：土屋真穂 小舘美彦 司会 奏楽：土屋真穂
17:00	散会	

登壇者プロフィール（登壇順）

●飯島 信（いいじま まこと） 【礼拝聖書講話（初日）】

1948年東京に生まれる。東京都公立中学校教員（社会科・特別支援学級）を定年退職し、牧師となる。NCC（日本キリスト教協議会）総幹事を経て、日本基督教団東日本大震災救援対策本部担当幹事となり、5年間、釜石・仙台・石巻のボランティアセンター、及び福島の子どもたちを対象とした保養キャンプに関わる。2022年4月、原発被災地である小高（おだか）伝道所・浪江伝道所牧師として着任し、5年目を迎える。

●森本あんり（もりもと あんり） 【主題講演】

1956年生まれ、国際基督教大学、東京神学大学大学院、プリンストン神学大学博士課程修了（Ph.D.）。国際基督教大学教授、2002年プリンストン神学大学客員教授、2010年バークレー連合神学大学院客員教授、2012-2020年国際基督教大学学務副学長、2022年同大学名誉教授、2022-2026年東京女子大学学長。近著に『反知性主義』『不寛容論』（新潮社）、『異端の時代』『魂の教育』（岩波書店）。5月に渡辺靖との共著『キリスト教ナショナリズム』（朝日選書）を刊行。

●木村護郎クリストフ（きむら ごろう クリストフ） 【礼拝聖書講話（二日目）】

1974年名古屋生まれ。学生時代は春風学寮にお世話になる。現在、家庭集会の他、自由が丘集会、春風学寮等で聖書講義担当。上智大学教授（外国語学部ドイツ語学科・大学院国際関係論専攻）。専門は言語社会学、中央ヨーロッパ地域研究。言語や文化が異なる人の共生の課題の他、世俗社会において宗教が果たしうる役割について、平和・和解や環境・エネルギーなどの観点から考察している。

●竹内恵子（たけうち けいこ） 【発題①】

独立学園在学中、図書室の本を読んで日本の加害の歴史を知り、「プルム学園に卒業生を送り出したい」という梶本忠雄教頭（当時）の願いを受けとめる。大学で教員資格をとるかたわら現代語学塾で梶村秀樹さんに学び、植民地時代の小説『常緑樹（サンノクス）』を共同翻訳・出版。光州事件のあった年、6ヶ月のビザがあり、プルム学園に滞在。帰国後、愛農大学講座参加をきっかけに自給自足を志す。現在、伊那谷の埋もれた歴史「農耕勤務隊朝鮮兵」の聞き取りとその記録づくりをおこなっている。

●早川 嗣（はやかわ ゆずる） 【発題②】

早川嗣（1987-）キリスト教愛真高校卒業後、学生時代は登戸学寮に在籍。テレビ報道の技術職を経て、写真家・映画監督の本橋成一の作品を管理・配給するポレポレタイムス社に勤務する中で本作を監督。

●村上 優（むらかみ まさる） 【特別講演】

1974年九州大学医学部卒業し同年国立肥前療養所に勤務。精神科医師。中村哲医師と出会う。2002年英国King's College London, Institute of Psychiatry 留学。2006年国立病院機構琉球病院、2014年同榊原病院、2018年同さいがた医療センターを経て2025年同花巻病院勤務。1983年中村哲医師の活動を支援するペシワール会発足時の発起人、1992年同事務局長、2015年同会長。2019年中村哲医師逝去した折に中村が担っていたアフガニスタン国際NGOであるPeace(Japan)Medical Services PMSの総院長を引き継ぐ。

<奏楽者>

●青木勇太（あおき ゆうた） 【奏楽（初日）】

2000年11月、仙台市で生まれる。6歳よりピアノを始める。15歳の時、日本キリスト教団青葉荘教会にて受洗する。その後、基督教独立学園高等学校へ進学し、本格的にオルガンを学び始める。明治学院大学法学部を卒業。同大学のオープンキャンパスやクリスマス礼拝、江古田教会のクリスマスコンサートおよびスプリングコンサート、昨年夏には青葉荘教会にてソロコンサートを開催し、演奏活動を行う。これまでに竹佐古真希、山本由香子、長谷川美保、廣江理枝の各氏に師事。日本基督教団仙台青葉荘教会オルガニスト

●土屋真穂（つちや まほ） 【奏楽（二日目）】

堤道雄氏主催「真理の会」（現、「独立伝道会」）のバイブルキャンプで子供時代の信仰を育てていただく。聖グレゴリオの家宗教音楽研究所 教会音楽専攻科卒業。現在、基督教独立学園高等学校音楽教諭、『季刊無教会』編集委員、公益財団法人登戸学寮 評議員、無教会全国集会準備委員。大阪芸術大学（通信）在学中。

開 催 要 領

1. 会場 今井館聖書講堂
東京都文京区本駒込 6-11-15 (※12 頁地図参照)
2. 参加方法 会場参加
オンライン (zoom) 参加
3. 日 時 2026 年 10 月 31 日 (土) ~ 11 月 1 日 (日) 二日間
・初日 10 月 31 日 (土) 13:30~16:05 (映画鑑賞 16:25~18:25)
・二日目 11 月 1 日 (日) 9:30~17:00
4. 主 題 「神を愛し、隣人を愛する」
5. 内 容 プログラム (4~5 頁) をご覧ください。
6. 参加費 二日間参加 : 5,000 円 どちらか一日のみ : 3,000 円 (何時間の参加でも一律この金額)
(学生は二日間 2000 円 どちらか一日のみ 1000 円)
※記録集代を含みます
※参加費の払い戻しはいたしかねますのでお含みおきください。
7. 映画鑑賞「聴く隣人のいるところ」 ※11 頁の紹介をご覧ください
鑑賞代は 1000 円 (参加費とは別になります)。
【注意】映画鑑賞は、会場のみになります (zoom では鑑賞できません)。

8. 申込み方法

下記の 3 通りになります。詳しくは 8 頁以降で説明します。

- (1) Google フォームによる申し込み (※これが一番望ましい方法です)
- (2) メール申込み (※(1)がご無理な方は、これをお願いいたします)
- (3) 郵送申込み (※(1)(2)がご無理な方はこれをお願いいたします)

<申込みの際の注意事項>

※定員 会場 70 名

※受領次第、折り返し参加決定通知 (Google フォームは「フォームの回答のコピー」) が送られます。

※参加費は参加決定通知 (Google フォームは「フォームの回答のコピー」) を受け取ってから同封の振替用紙にて郵便局にお振込みください。振替用紙が無い場合は、郵便局備え付けの振替用紙にてお振込みをお願いいたします。振込口座は、参加決定通知 (Google フォームは「フォームの回答のコピー」) に記載しております。

※zoom 参加で同じ PC 画面で複数名が参加される場合

- ・申し込みは 1 人ずつ行なってください。(参加費は人数分のお支払いをお願いします。)
- ・「事務局への連絡事項」欄に「〇〇〇さんの PC で参加」とお書きください。

※参加者名簿にはお名前・住所・電話番号・メールアドレスも記載されます。記載を望まない方はその旨を申込みの際お書きください。

※昼食は各自をお願いいたします。近くに店がございますので、当日ご案内いたします。

※宿泊施設は参加者各自で探して下さい。開催直前の予約では宿泊料金が高額になることが予想されますので、なるべく早く、できれば 7 月中の予約が望ましいと思います。

<申込み締め切り>

2026年10月18日(日)必着

<申込み方法詳細>

(1) Google フォームによる申込み方法 ※これが一番望ましい方法です

右記 QR コードをスマホのカメラ機能や QR コードリーダーで読み取り、Google フォームに必要事項を記入して申込み。



(2) メール申込み ※(1)がご無理な方は、これをお願いいたします

●下記の内容を記載してお送りください

- ①お名前
- ②住所
- ③電話番号
- ④メールアドレス
- ⑤所属集会名（あれば）
- ⑥簡単な自己紹介（100～200 字以内）
- ⑦参加日程

初日：10 月 31 日（土） 参加する ※参加方法（ ）

参加しない

二日目：11 月 1 日（日） 参加する ※参加方法（ ）

参加しない

※参加方法は「会場」か「zoom」かをご記入ください

- ⑧初日映画「聴く隣人のいるところ」鑑賞

参加する 参加しない ※【注意】会場のみ（zoom では参加できません）

- ⑨事務局への連絡事項（※何もなければ記載しなくて結構です。zoom 参加で誰かの PC から参加される場合には、この欄に「〇〇〇さんの PC で参加」とお書きください。）

●下記「メール申込み用アドレス」にてお申し込みください。これ以外のアドレスで送らないでください。

メール申込み用アドレス mukyoukaizen@gmail.com

（【注意】前回と変更しています）

(3) 郵送申込み ※(1) (2) がご無理な方はこれをお願いします

メールアドレスが無い方が前提になります

次ページ申込み用紙に記載の上、用紙を切り取って封筒にてお送りください。

●送り先住所 ※他の住所には送らないようにしてください

〒113-0033

東京都文京区本郷5-8-3-404

笹井あかね

【郵送用申込フォーム】

※記載の上、切り取って封筒でご郵送ください。

※申込み方法（１）（２）がご無理な方がご使用ください。

※申込み方法（２）のメールにこれを PDF や写真等で添付することはできません。

当日資料の名簿掲載希望しない箇所は×



お名前	(フリガナ)	
住所	〒	
電話番号		
所属集会名 (あれば)		
簡単な自己紹介 〔100～200 字〕		
参加希望日程（該当箇所に○を書いてください）		
	会場参加	z o o m参加
1 日目		
2 日目		
映画鑑賞会（1 日目 参加は会場のみ） ※どちらかに○		
	参加する	参加しない
事務局への連絡事項（何もない場合は記載しなくて結構です。 <u>z o o m参加で誰かの PC から参加される場合には、この欄に「〇〇〇さんの PC で参加」と書きください。</u> ）		

（切りとり）

映画「聴く隣人のいるところ」紹介

(初日 16:25～18:25 映画鑑賞会)

(※以下、公式チラシより)

声と歌が、まっすぐ届く、ある全寮制高校の一年間

いま、声はあふれている。

けれど、互いの声は届いているだろうか。

島根県江津市、浅利富士の中腹に佇む全寮制の愛真高校。生徒数わずか34名のこの学校では、生徒たちは親元を離れ、仲間と寝食をともにしながら三年間を過ごす。スマートフォンもインターネットもない生活の中にあるのは、学友や教師との対話、そして音楽。少し不便で外界から距離を置いた環境だからこそ、人と向き合う時間が自然に生まれる。ここでは、意見を述べるだけでなく、相手の言葉を聞き、受け止め、ときにぶつかることが当たり前になり繰り返される。生活の指針である「決まり心得」もまた、「全体会」と呼ばれる場で生徒と教職員が議論を重ねながら更新されてきた。生徒は自分の声を持つことが他者の声に耳を澄ますことへつながるということを知っていく。

いま、声はあふれている。けれど、その声は互いに届いているだろうか。「自分の意見を持て」と求められ続けた時代の先で、私たちは他者の声を引き受ける力を手放してはいないか。

本作は、国内外から集まった若者と教師が共に暮らす愛真高校の一年を記録したドキュメンタリーである。監督は同校出身の早川嗣。写真家・映画監督の本橋成一の制作に携わってきた早川が、母校にカメラを向け完成させた。熱心なキリスト教の家庭で育った監督が、自身の青春時代を省みながら撮り溜めた記録であり、彼の本格的デビュー作でもあり同時に2025年12月に逝去した本橋が支援し、最後に世に送り出した作品となった。

映画は、学生たちの喜怒哀楽とともに、小さな学舎で対話が生まれる時間を映し出す。

出演 キリスト教愛真高校 2024 年度在籍者

監督・撮影・編集 早川嗣 共同プロデューサー本橋成一 大槻貴宏

整音 石川雄三 宣伝美術 ROTA 宣伝 アギィ 配給協力 ポレポレ東中野

製作・配給 ポレポレタイムス社 2026 年/111 分/DCP/カラー/ステレオ

【早川嗣監督よりのメッセージ】

「映画は愛真高校を PR する趣旨ではないのでご注意ください。テーマは人間関係です。鑑賞後、他者への配慮の中でできる限りの自由な対話が生まれたら嬉しいです。」

(※委員会より；上映直後に早川監督来席の上で、「自由な対話の時間」が持たれます。また、二日目の「発題」では、早川監督がこの映画についてお話をされます。)

10. 問合せ先 無教会全国集会準備委員会

(※申込みには使用しないでください)

事務局：荒井克浩、廣瀬治基

〒113-0021

東京都文京区本駒込6-11-15 今井館内

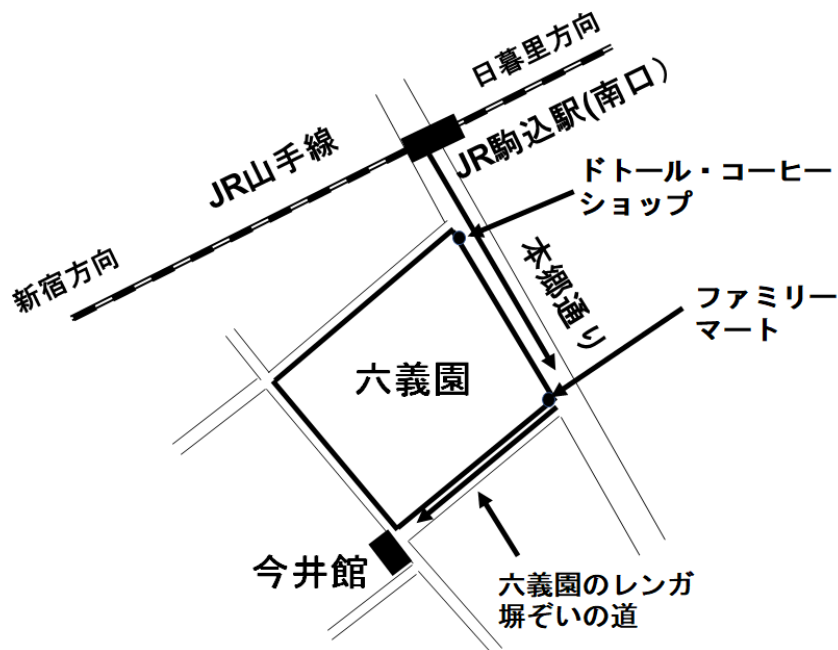
TEL・Fax 03-6277-5669 (今井館；TELは月のみ)

090-7262-2349 (荒井)

Eメール mukyoukaizen@gmail.com

(【注意】アドレスは前回と変更しています。これ以外のメールは使用しないこと)

今井館へのご案内



東京都文京区本駒込 6-11-15

JR 駒込駅・地下鉄南北線駒込駅より徒歩約 8～10 分

前回の無教会全国集会 2025 やそれ以前の内容をホームページで見ることが出来ます。参加ご検討の際に、ご参照頂ければ幸いです。(URL) <https://mukyoukai.yakiin.net/> 「無教会全国集会 2025」で検索可。今井館ホームページ表紙の「無教会全国集会」バナーからも入れます。